

## 総務文教(都市事例報告)

### ■地域コミュニティの推進状況

#### 〔室蘭市〕

室蘭市は平成19年市民活動推進課(現在は地域生活課)を設置しています。町内会等に対する支援として協働のまちづくり指針を策定しています。自助・共助・公助の責任の下、清掃美化活動(ボランティア)等で、200団体7千人近い市民が協力されています。町内会入会率は、25年4月で69.3%。町内会加入率向上対策として、加入促進マニュアル等を作成し、アパート等の所有者及び大学生等にも入会案内を行うなど、地道な対策を行った結果加入に結びついている事例も報告されています。また、共同のまちづくりと合わせ、町内会等に対する活動を強固に推進しています。

#### 〔南幌町〕

南幌町の住民自治は、「誰かがするだろう」「それは行政の仕事だ」と無関心でいるのではなく、自分たちの地域は自分た

ちで考え、みんなと一緒によりよいまちにして行く地域づくりをしています。

この度の事例で本市の地域コミュニティ推進員と同じ、地域担当職員制度を調査しました。

平成19年施行し、20の地域に最低2名、多い所で6名配置し、地域内の支援活動、調査活動を基に職員が携わる活動は、出席を求められることにより、総会、役員会、地域行事等に参加し、地区内で出された要望等の事項は個別に担当課と協議し地域に報告した後、職員全員が共有されています。当初より地域内要望は地域で解決し、年々要望は減少傾向です。町内会入会率は100%に近い状況です。



南幌町にて

## 保健福祉(事務調査報告)

### ■調査第2号「地域医療計画と医師確保について」

委員会では、富良野医師会との意見交換を行い、事例調査も実施し、命と健康を守る今後の地域医療のありかたについて議論を深めてきました。

北海道は医療圏を21に区分し医療体制を示しています。北海道の医師の半数が札幌、旭川の医療圏に集中し、富良野医療圏の医師数は15番目となっています。医師の偏在が顕著になっています。平成16年から導入された新臨床研修医制度によって初期臨床研修を出身大学以外の指定病院で受けることができることになり、多くの研修医が都市志向が高く地域センター病院とかかわりの深い旭川医大においても同様な傾向ですが、医師確保は、私達が安心して暮らせる基本であることを踏まえ報告をいたします。

富良野市地域医療計画の基である北海道保健医療福祉計画は25年、改訂され死亡要因が5疾

病となり、市における1次救急医療体制の変化、策定され6年経過し医療環境の変化に伴い見直しが急務です。25年度より医師確保に関する施策の展開が図られているが、地域センター病院の常勤医師を安定的に確保するには一つの施策だけでは医師不足解消は困難であり、多様な医師確保対策の必要性が求められるとともに、地域医療対策基金の活用なども視野に入れた施策の立案や実施を行い医師確保の確立が求められます。

さらに市民向けに医療施策の理解、医療機関の受診行動などを喚起する内容として、情報発信の抜本的な見直しが必要です。



医師会との意見交換